

### 1. 教育の責任

\* 管理栄養士養成を目的とする学部での教育を念頭に担当する「食」に関する知識を中心とし、健康・栄養の専門家として社会に貢献できる人材の輩出をおこなう。

(担当科目)

- ・食品学各論（講義 栄養学メジャー必修科目 秋学期 2単位 94名）
- ・食品加工学（講義 栄養学メジャー必修科目 春学期 2単位 81名）
- ・機器分析論（講義 栄養学メジャー選択科目 春学期 1単位 6名）
- ・卒業研究（演習 栄養学メジャー選択必修科目 通年 4単位 2名）

### 2. 教育の理念

単に教科書の知識を得るだけでなく、それらを使って自分で考え行動できる人材を育てることを理念としている。しかしながら自分で物事を考えるにはその基本としてしっかりと知識が必須である。まずは管理栄養士として社会で働くのに必要な知識を習得することの必要性を理解させるとともに、それらを駆使して考える力を身に付けさせることを教育理念としている。

### 3. 教育の方法

#### 教育の目的と目標

基礎的な知識を身につけることを第一段階として、管理栄養士として活動するためには「食品」や「分析技術」に関して具体的にどのような知識が必要であるかを提示することを目的としています。そのために「食品」に関する多くの知識の中で最低限何を知っておくべきかを具体的に提示し、その知識が何を意味するのかより理解できるよう教えていきたい。

卒業研究では学生には上記の基礎知識を基に与えられたテーマに関する「科学研究」を行うことで、それまでに得られた知識を「研究」に活かすことを体験するとともに実験などの「結果」をどのように解釈するのかわかるように通して、自分で考えることを、そして新しい考え方を作り出すことを学生自身に経験してもらうことを目標とする。

#### 教育実践

上記の目的を実現するために、講義についてはシラバスに各講義の1回ごとに何を学ぶのか具体的な表記をしている。シラバスを基に講義を行うが、学生にとって講義している内容のどの部分がまずしっかりと身に付けて欲しい基本的知識になるのかわかるように意識した講義構成としている。講義スライドでは図や写真等を多用し文字だけではわかりにくい部分の理解を深められるようにしている。講義終了時には次回内容を記載した教科書部分の提示をおこない予習範囲の確認をしている。また講義開始時に前回講義内容の小テストを行い、学生に自分自身でどの部分の知識や理解が不足しているかを分かるようにしている。

卒業研究では、実験などで得られた結果から「何が分かったのか」、また「何が分かっていないのか」を考えさせることをおこない、得られた結果をどのように解釈するのかわかるように学生自身に実践させる。またその解釈を他者へ理解してもらうには新たに「どのような実験、結果」が必要なのかを考え、実際にデータを得る実験を組み立てることを考える。これらを繰り返すことで「自ら考える」ことを身につけてもらう。

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：白石 齊聖 作成日：2023年12月30日

### 4. 教育の成果

講義科目での学生の授業評価からは「覚えることが多い」、「これまで知らないカタカナ語」が多い、などのコメントが毎年出されている。特に食品学関係では専門的な用語も多いため、「理解」よりもまず「知識」を必要とすることが多い。知識の優先順位を示すことは試験の結果を見ると学生の勉学の一助にはなるものの、最低限レベルの知識で止まっている学生も多く見受けられる。

卒業研究の実際では、学生に自ら考えて研究の次のステップに進むことを予定しているものの、学生から次の考えの出ない場合も多い。そのため具体的な実験項目などをこちらから提示しておこなうことも多いため、指導法には改善が必要と考えている。

### 5. 改善への努力と今後の目標

講義科目では「覚えることが多い」ことに対して必要な知識について「より印象に残る」、「より頭に残る」提示の仕方を考えていきたい。

「強調」や「繰り返し」を上手く使用することや、長時間の講義で飽きのこない進め方を今まで以上に考えていきたいと思う。

卒業研究ではこれまで以上に「ディスカッション」の時間を増やすことで学生自身で考える場面を増やし、次のステップに進む形を進めていきたいと考えている。安易に次の道を示すよりも一緒に考えて次を決めるような形を繰り返していきたい。

### 【添付資料】